



ROTARY CLUB OF KASHIWA-NISHI

第2790地区

柏西ロータリークラブ

創立:1975年11月7日 承認:1975年11月24日

会報 第1605号

四つのテスト

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？



第1632回 3クラブ合同例会【2009.8.28】

柏・柏西・柏南ロータリークラブ

会長／金本元章 幹事／小林太時

■柏西ロータリークラブURL:<http://kashiwa-nishi-rc.com/> ■第2790地区ロータリークラブURL:<http://www.rid2790.jp/2009/>

第1632回合同例会 2009.8.28

- 1. 点 鐘 金本元章会長
- 1. 会長挨拶 金本元章会長
- 1. 幹事報告 小林太時幹事
- 1. ガバナー挨拶 中村博亘ガバナー
- 1. 卓話 習志野RC由川久子会長
- 1. 点 鐘 金本元章会長

会長報告

金本元章 会長



みなさん、こんにちは、柏西ロータリークラブ会長の金本でございます。中村ガバナーをお迎えしての、三クラブ合同例会及びクラブ協議会のホストクラブの会長ということで、僭越でございますが、柏・柏南・柏西の三クラブを代表してご挨拶申し上げます。

本日の、中村ガバナーには、お忙しいなか私ども三クラブのためお出でいただきまして、ありがとうございます。また、瀧日ガバナー補佐には、常日頃何かとご指導いただき、尚且つ、本日はご出席いただきありがとうございます。

合同例会、クラブ協議会に先立ち、私どもクラブ会長・幹事、更に会長エレクト、副幹事は、それぞれ三クラブ別々に、中村ガバナーと、瀧日ガバナー補佐と懇談をいたし、ご指導いただきました。中村ガバナーに於かれましては、ロータリーに対する真摯な態度と情熱をお持ちで、私どもに貴重な教示とご示唆を与えていただきましたことをご報告申し上げます、今後のクラブ運営に活かしてまいりたいと考えます。

後ほど、会員の皆様には直接ご指導をいただきますが、中村ガバナーをお迎えして実りある合同例会であり、クラブ協議会になることを期待しております。

本来、中村ガバナーの卓話を

設けられておりましたが、中村ガバナーにはあらかじめ、ご了承を頂きまして、習志野ロータリークラブの会長さんでもあります由川久子様をお招きしての卓話となります。是非、期待して頂きたいと思っております。由川さんの詳しいご紹介は、後ほどさせて頂きますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

なお、このガバナー公式訪問に際しまして、柏西クラブがホストクラブとして、皆様をお迎えしましたが、何かと不行き届きの点が、あると思っておりますがロータリーの友情に免じ、どうぞお許しいただきたいと思っております。

最後になりましたが、ガバナー公式訪問に際しまして、何かとご指導、ご協力賜りました、ガバナー事務局、ガバナー補佐幹事、三クラブの事務局の皆様へ感謝の意を表し、ご挨拶と代えさせていただきます。ありがとうございます。

■例会日／金曜日 12:30~13:30

■例会場／ザ・クレストホテル柏
〒277-0842 柏市末広町14-1

TEL.04-7146-1111 FAX.04-7146-2100

■事務所／〒277-0011 柏市東上町7-18

柏商工会議所会館 505

TEL.04-7162-2323 FAX.04-7166-8282

E-mail: kashiwanishi@io.ocn.ne.jp

幹事報告

小林 太 時 幹事

1. 地区第1,2,10,12,13分
区「ロータリー広報・情報
研究会」開催の案内

*日 時：10月3日(土) 13:30~

*テーマ：決議23-24からロータ
リーを知ろう

*場 所：マリアチャペル マリ
バール 柏(旧玉姫殿)

※対象は新会員ですが、多くの会員の出席をお願いします(依頼)

2. 第10分区分「第2回会長・幹事
会」のお知らせ

*日 時：9月11日(金) 18:00~

*会 場：ザ・クレストホテル 柏



柏ロータリークラブ



柏西ロータリークラブ



柏南ロータリークラブ

ガバナー挨拶

中村 博 巨 ガバナー



皆さんこんにちは。

私のガバナーとしての公式訪問の第一の目的は今のRIの方針もしくは、今ロータリーが何を目標に進んでいるかを皆さんに関心をもってもらえるようお話をし、それが私の公式訪問の目的でございます。私が皆さんにお話ししなければならない事は、RIは今なぜCLPかという事をお話ししなければならないと思います。

RIというのは今、大変変わろうとしています。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」ジョン・ケニー会長が新しいテーマを打ち出されました。ロータリーの未来は皆様一人一人の手の中にあるのです。ロータリーは今変わらなければいけません。

このロータリーは本来会員相互の助け合いから始まりました。

「He profits most who serves his fellows best」これはロータリーの三賢人の一人でありますシェルドンが言った言葉です。一番最初の言葉は「his fellowe」が入っていたのです。仲間に対してサービスをすればより儲かりますよという標語だったのです。助け合ってよりお金儲けをしましょうというところからスタートしているのです。それが職業奉仕に繋がっていきます。シェルドンがそれだけでは駄目だと、自分達のためだけではなくて他人のためにも何か良い事をしよ

うじゃないか。その二つの気持ちを調和させるものが奉仕である。そしてもっともよく奉仕する者が最も多く報いられるという実践哲学が打ち出された、これがロータリーの哲学です。

ところが、そういう中でそれだけではロータリーは生きてはいけないと言い出したカーターさんという方が出てきて、ここに社会奉仕を導入します。ただ1910年代社会奉仕か国際奉仕かという大変議論が起きます。その中で社会奉仕を主にする人達がロータリーから分かれて行って1917年に作られたのがライオンズクラブです。社会奉仕か国際奉仕かという議論に終止符を打ったのが1923年の決議34号です。皆さん良くご存じの23-34と言われるものです。皆さんお持ちの事務要覧の社会奉仕の声明の中に書かれています。これはロータリアンなら必ず読んでいなければならない文章です。必ず23-34は目を通して下さい。

クラブを中心として、クラブの中で培った奉仕の理念(理想)をもって職業を通して地域社会に貢献しようというのが職業奉仕です。その職業奉仕の理念を元にロータリーの奉仕の基本は出来上がっています。ただこの23-34が出ました後、1927年クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕という四大奉仕部門というのが確立されました。そして現在まで約80年続いてきました。その間ロータリーの奉仕の方向性はクラブを通しての奉仕とうものからだんだん変わってきました。

1947年に教育的プログラムが取り入れられ、その後1965年から人道的プログラムが取り入れ

られました。クラブの奉仕が地区の奉仕へ1980年からスタートしました3Hプログラム「Health, Hunger, Humanity」、これによって地区のプログラムからRIのプログラムへ変わってきたわけですね。この時23-34に書かれているI ServeではなくWe Serveではないかと大変な議論になりました。しかし当時の委員の一人（後のRI会長）がこれはあくまでもI Serveの延長線上にあるのだと押し切ってしまいました。その中で3HのHealthの部門でポリオのワクチンをフィリピンの子供たちに5年に渡り投与します。これが大変成功します。そこで1985年からこのポリオをRIのプログラムとしてスタートさせたのです。こうなるとロータリーの奉仕はI ServeからWe Serveへ変わって来たと言うしかありません。

そう言った議論がある中で、特に日本のロータリアンにとって最も重要と感じている職業奉仕が1947年から87年までRIの委員会の中で40年間一度も開かれていなかったのです。それが1987年に委員会が開かれまして88年、89年の職業奉仕の声明というものが手続要覧に出ています。その中に「職業奉仕は会員個人ならびにクラブの責任においてやるべきである」というふうに唱ってあります。そこで日本のロータリアンの中から問題提起されます。I Serveであるべき職業奉仕がなぜクラブ奉仕だということで、この時も少し問題になりました。これは私がちょうどクラブの会長年度だったため良く覚えています。しかし、RIの方針はすでに職業奉仕からむしろ人道的プログラムを中心とした国際奉仕の方へ動いてき

たのです。その証拠には1965年から2000年までに扱われた人道的プログラムの代表と言われるマッチンググラウンドはこの30年間で1万件に対し2000年から2004年までの4年間で同数の1万件あります。今年はまだすでに3万件を突破します。という事はロータリーの方針はもうすでに国際奉仕へと傾いてしまっているという事なのです。その証拠にRIは2017年までに世界第一の奉仕団体になると唱っています。この様に奉仕の方向性が変わってきているのです。

そう言う中で世界中のロータリーの意見を聞きまして世界のロータリーはどうあるべきかをまとめたものがRIの長期計画というものです。そしてその長期計画を達成するために必要なのが効果的なクラブを作る事なのです。効果的クラブというのは会員基盤をきちっとまとめる、会員増強なのです。

それから地域社会、国際社会への奉仕活動、ロータリー財団への援助、将来を担う指導者の育成です。この四本柱が効果的プログラムを支えているのです。その土台にあるのがCLPなのです。ところがRIの長期計画にしてもCLPの効果的プログラムにしても23-34と相容れない部分が沢山あり2004年RI理事会は23-34をロータリー章典から省こうとしました。アメリカの理事がこれを提案しました。今RIの理事は会長副会長を含め19名います。その中の6名が7名はアメリカ人です。日本の理事はたった1人しかおりません。数の上で勝ち目がないのです。しかし当時日本は理事を2人持っていました。今は1人ですけども。これをなんとか抑えようと頑張ってくれたの

が渡辺さんという元RIの理事です。その辺の経過は昨年11月号のロータリーの友に詳しく出ています。今は何とかこれを省こうというのを食い止める事ができています。

日本のロータリアンは、ロータリーの基本は職業奉仕なのだという意見もありCLPの導入が遅れています。他の地域では2005年から導入され世界では70数パーセントはすでに取り入れています。今日本の会員は激減しました。日本にはゾーンが3つしかなくなりました。1996年13万人いた会員が今では6万人台まで減りました。RIは日本のゾーンを4ゾーンから3ゾーンに減らしたのです。3ゾーンですと毎年RIの理事を出せません。これより減ると2ゾーンになり、もう毎年理事者が出せなくなります。ですから会員増強が必要なのです。だから皆さんにお願いするのは。会員増強に全力を出して下さい。皆さんもご存じのように1990年代の後半はこの地区の会員は約4,500人近くいました。今年、私の年度のスタートは2,840人しかいないのです。このまま行くとロータリーは減り50年、100年と続けて行く事ができなくなります。今我々がやらなくてはならないのは会員増強です。そしてクラブリーダーシップを取り入れる事でクラブを活性化させるという事が大切なのです。

今ロータリーは皆さん一人一人の手にかかっています。ロータリーはあなたが主役なのです。どうか私と共に会員増強に力を尽くそうではありませんか。どうかよろしくお願ひします。

卓話

由川久子 習志野RC会長



皆様こんにちは。今回、卓話をさせていただきます習志野RC会長の由川と申します。お聞き苦しい点もあるかと思いますが、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。まずは簡単なプロフィールからお話させていただきます。

私は昭和47年に時給450円のパートとしてコメット株式会社の子会社でありますコメット工業株式会社に入社いたしました。現場作業員として働いておりましたが、異動により経理課へ配属され経理の経験の無い私はこれではいけないと考え、夜間学校に1年間通い経理簿記2級を取得しました。その甲斐もあってパートから正社員への登用に至りました。その後、親会社より独立し亡き先代社長と共同経営にて再出発をし、8年後には茜浜に新社屋を建てるまでに成長しました。しかし翌年、メインクライアントの倒産に伴い多額の負債を抱えると同時に、想像を絶する苦難の日々を5年ほど経験いたしました。借入、返済に追われ時には当座に3万円を残すのみという苦境も味わいました。しかし、歯を食いしばり頑張れ

ば必ず道は開けるものです。皆さんご存じのアップルコンピューターとの出会いにより業務転換を図り、10年間で100万台以上の出荷実績を誇るにまでなりました。しかし、人生と言うのは正に山あり谷あり…アップルコンピューターの業績不振に伴い契約解除となり、150名にまで拡大した従業員を50名に縮小せざるを得ない状況に見舞われました。それに加え、共に荒波を乗り越えてきた先代社長の急死、私にとっては人生最大の苦しい時期でした。しかし、ここで諦めては先代社長の死が無駄になるだけでなく、私自身のこれからの人生も負け続きの人生になると思い、社長就任を決意します。

そんな私がロータリークラブと出会ったのは、社長業として無我夢中で走り続け3年が過ぎ、少し速度を落とし周りが見られるようになった2001年のことです。その後様々な委員会、委員長を経験させて頂き本年度、習志野RC46代目会長に就任させて頂きました。

そのロータリークラブはもとより、私の歩んできた人生で培った成功の礎となる事柄を幾つか言わせて頂きます。

世は100年に一度の危機！を迎えています。しかし、言い換えれば100年に1度のチャンス！なのです。「環境の変化に応じて変えられるもの、環境に最も適したもののみが生き残れる事が出

来る」時代なのです。不況は怖くない、怖いのは人の心の乱れです。経営上の乱れは不況です。そして今回の経済不況は俗に言う大不況（世界同時の副合不況）であり正に一寸先は闇。そういう時こそ経営者は「先見先行」です。日々種まきし企業の強み、価値感を自覚しダメ、ダメ、と思わないこと。ダメ、ダメ、と思うとダメになるのは必至です。またアイデアは無尽です。全て現場から、何事も現場第一主義を心がけて下さい。そしてムダの排除、使途不明時間を無くす事を心掛ける。それと1年365日ですが、年間144日の休み（土曜、日曜、有給、祝祭日、企業の夏冬の休み）が有ります。よって1.5日働いて1日の休みになると気持ちゆとりを持ち仕事に勤しむ事です。これらの事柄を踏まえつつ、何事にも信念を持って忍耐と努力を積み重ねる事が成功への道だと信じて疑いません。

最後になりましたが、このロータリークラブ会員の皆様が成功、成長する事はひいては日本はもとより世界の成功、成長に繋がるものと願いまして私の卓話とさせていただきます。本日はご静聴ありがとうございました。

柏・柏西・柏南RC合同ガバナー公式訪問 クラブ協議会

・日時：平成21年8月28日（金）13:50～

・場所：ザ・クレストホテル柏

・ホストクラブ：柏西RC

■開会の言葉

柏RC会長：根本 健一

■ガバナー補佐挨拶

我孫子RC会長：瀧日 明



■テーマ発表

「クラブ・リーダーシップ・プランと会員増強」

柏RC会員：溜川 良次



なぜ、このテーマが協議事項となっているのか？ ロータリークラブが生れて100年が過ぎ、一種の制度疲労が起きていたのかもしれない。精神は継続されても、活動の手続きは時代の要請に沿って見直されるべきでしょう。8月は「会員増強月間」でもあり、時宜を得たテーマでもあります。

CLPの目的

「効果的なクラブ管理の枠組み」がCLPによって提供されました。特にクラブ活動の継続性

と全員参加が大切なものだと思います。CLPによって、地域社会や世界に貢献できる力を備えたクラブづくりが求められていると思います。柏クラブでは皆で話し合った結果、50周年事業を契機として①青少年②環境保全をテーマとした活動を具現化しはじめています。少年少女合唱団への協賛とボーイスカウトへの物品供与、及び同団体等と協働による公園整備（松ヶ崎城跡への植樹）です。

会員増強での力点

増強には①拡大と②維持がありますが、維持への努力は重要です。中村ガバナーは「2008年11月、新入会員7500名に対し、退会者は8800名」と8月のガバナー月信で述べられています。退会防止には魅力ある例会などの活動が大切なことは、これまでも指摘されてきました。より一層、クラブ活動を充実することが必要不可欠です。

自分磨き

これまでロータリークラブには立派な紳士達が集い、ステイタスでした。従って、会員となることによってその立派な人々に近づくことができ、仲間に加えてもらうことによって、名誉や満足を与えてもらったかもしれません。しかし、今も同じでしょうか？ 充実した活動と共に、「あの人がいるから、あのクラブに入りたい。共にロータリー活動をしたい。」と言われるように自身を磨き高めることが求められているのではないで

しょうか。まさに“ロータリーの未来は「私達」の手の中に”あるように思います。

柏西RC会員：中村 佳弘



皆様こんにちは。

本日の発表者になりました柏西ロータリークラブの会長エレクトの中村です。人前でお話しをするのは大変苦手ですので、聞きづらい事があるかと思いますが、その時は皆様方の暖かいお気持ちでどうぞお許しをお願い致します。それでは発表させていただきます。

私、ロータリーアクトクラブを28才で卒業して…あっ、私達の時はローターアクトは28才で卒業でした。柏西ロータリークラブに入会して23年ほどになりますが、今回ほどロータリーの本を読んだことはございません。とりあえず一夜漬けですけども聞いて頂きたいと思います。

本日のテーマは「クラブリーダーシッププランと会員増強」ということです。

柏西ロータリークラブではご存じのように今年度、中村ガバナーを輩出致しております。前年度、嶋田会長の時にCLPを導入して今年度、金本会長で2年目に

柏・柏西・柏南RC合同ガバナー公式訪問 クラブ協議会

はいりました。前年度CLPを導入して始まった時に「何これ?」「CLP」って何?、中村ガバナーが今から仕方なくやるのかなと思っていました。ところがどっこい「CLP」について学んでいくうちに、なるほどなと思いました。

最初は、CLPはいろいろ説明するが結局RIの人集め、財団の金集めの意図を反映したものでないかと考えました。ロータリーの本の中でRI元理事で「CLP」を立案したLDT委員会元委員長長のロン・バートンは、CLPはあくまでも時代の変化に対応したクラブ強化のために出発したものと言っているのです。そして5つの常任委員会はRIが提唱している「効果的なクラブとなる四つの要素」に基づいて構成されています。

効果的なクラブの第1の要素は会員を維持し、会員を増強させる能力です。明らかに会員増強はロータリーの生存にとって根本的なことです。新会員にとって最も大きな損失は実務を与えられないことだと思います。会員が活動に参加しないと興味は減少してしまいますし、結局、私達はその会員を失うことになります。研修や活動への参加は初日から始めなければなりません。私達は皆、自分自身が新会員教育に責任があることを考えるべきです。また確実にすべての個人がそれらに意味のある行動に参加するように要請しなければなりません。

「CLP」における会員増強・退会防止では、会員の質の向上を大切にし退会防止を図り、また会員に十分なロータリー情報を伝えながら新会員を勧誘すべきだと思います。それと広報活動の大切さを認識すべきだと思います。ロータリークラブは我々が思っているほど世間の人に認知されてはいません。もう一つのクラブの方が知られているみたいです。

我々は常に我々の奉仕の成果を、地域社会の人たちに知ってもらうべきだと思います。多くの方がロータリーを知ることで我々の活動に賛同して参加してくれると思います。ちなみに我が柏西クラブでは今年度、こういう「うちわ」を5,000本作りました。来年、千葉で国体が開催されます。そのリハーサル大会が7月にあり、3,000本配布しました。また柏まつりでもロータリーに対する認識と広報活動として配布しました。やはり何かしなくてはいけないと思います。

それと今月のガバナー月信でガバナーは、ロータリーファミリー（ローターアクトの卒業生、財団学友等）に話してみるのもよいと書いてあり、入会金免除や1年間の会費免除とありましたが、私は勉強不足で知りませんでしたが、これはいつ頃からなのでしょう?それとガバナー月信の最後にローターアクトクラブの一覧表が載っていましたが、地区内に8クラブあり会員数10人を超えているのが1クラブ、

あと7クラブは1桁の会員数です。ちなみに柏のアクトクラブは次年度は1人になってしまうそうです。新世代の育成ということで、この現状を地区はどのように考えているのか聞きたいです。

最後は質問になってしまいましたが、以上で私の発表を終わります。とりとめのない話して申し訳ございませんでした。

柏南RC会員：中島 恵里



クラブ・リーダーシップ・プランはここ数年、ガバナー公式訪問やIMで毎年のように話し合われてきました。

既にご存じのこととは思いますが、クラブ・リーダーシップ・プラン推奨管理構成は最善の実践方法として、

- 効果的なクラブの要素に取り組む長期目標、およびこれを支える年次目標を策定する。
- 定期的にクラブ協議会を招集する。
- クラブの活動や親睦にすべてのクラブ会員を参加させる。
- 連絡伝達（コミュニケーション）の円滑な方法を維持する。
- 指導力の継続性を確保する。
- 定期的かつ首尾一貫した研修

を提供する。

と、されております。

これを考慮しつつ、柏南ロータリークラブでは、前年度（2008～2009年度）にCLP導入検討委員会を立ち上げ、月に1度の委員会で話し合いをしながら、本年度よりクラブ・リーダーシップ・プランを取り入れました。導入にするにあたり、先行クラブであられる、柏西RC、成田RCから沢山の情報支援をいただき、感謝をしております。ありがとうございました。

今回、クラブ・リーダーシップ・プランと会員増強というテーマで発表の機会を与えていただいたのですが、クラブとして導入後間もないため、残念ながら成果をまだお伝えすることはできません。しかし、会員増強を踏まえて考えてみますと、ロータリージャパンのホームページからダウンロードできるファイルに『クラブ・リーダーシップ・プラン』というのがありますが、この1頁めにクラブ・リーダーシップ・プランの目的がいくつか書かれています。

その項目のひとつに、

●クラブ会員全員が最新情報を得ていること、クラブに参加していることを実感できるようにする。とあります。

私は、この項目こそが会員増強のカギになると思うのです。

実績として、当クラブで、多くの新会員をご紹介して下さる方は、殆どの場合が会長経験者であり、出席優秀者でもあり、

チャーターメンバーであります。つまり、ロータリークラブをより理解されている方だからこそ、その良さを実感し、伝え、誘い、新会員の入会につなげられるのだと思うのです。

クラブ会員全員が最新情報を得ていること、つまり、会員間のコミュニケーションの場が増えれば、チャーターメンバーからの知識を得たり、また新しい情報を皆で共有する機会が増えることにより、また、新会員入会までの手続き等も伝授していただければ今まで紹介の経験のない会員の方も新会員紹介へと繋がるようになると思えます。

また、会員増強とは現会員の維持の意味合いも含まれております。今まで、退会されてしまった会員は何故やめてしまったのかと思い起してみますと、入会して数年後に退会してしまう会員の多くは、この「クラブに参加していることを実感する」このことが出来ていなかったように思います。

入会当初は、必ず毎週の例会に参加していたのに、1年の間に例会への出席が月ごとに減り、3回になり、2回になり、1回になり、しばらく顔を拝見していないな、と思っている間に退会されてしまっていることに気付かされます。私自身の経験からもそうですが、ただ単に例会に出席をしているだけでは、ただ活動に参加しているだけでは、ロータリーの魅力は感じられません。

それは、ロータリーに入会したものの、奉仕活動といっても何がどう行われているのか解らないままいるのかも知れません。地区で行われるセミナーは、会長・幹事・各委員長が出席をします。所属する特定の委員会の事は委員長からの報告で理解していても、他の委員会のことについては知らないままいるのかもしれない。

クラブ・リーダーシップ・プランでは、各会員全員が情報を共有できるような組織図になりました。これにより、他の委員会の事も多く知ることができ、実感することができるようになり、それこそロータリーが今年のテーマの中にもあります「手の中」にあるのだと思います。ロータリーの魅力は『ロータリーの綱領』にあると私は思っております。

クラブ・リーダーシップ・プランは、この『ロータリーの綱領』と『奉仕部門（四大奉仕）』に到達するためのものとされています。

会員一人一人が、クラブ・リーダーシップ・プランを導入した事により、このロータリーの綱領と、四大奉仕を実感することができれば、退会防止へと繋がるのだと思います。

初めにも申し上げましたが、当クラブは今年からCLPを導入しました。先の事はわかりませんが、クラブ・リーダーシップ・プランの目的を達成できるよう、クラブ一同で試行錯誤し

柏・柏西・柏南RC合同ガバナー公式訪問 クラブ協議会

ながら会員増強につながるよう頑張りたいとおもいます。

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにあります。

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること。
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。
- 第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

■グループ討議

3名の発表終了後、7つのグループに別れて「CLPと会員増強」のテーマで活発な意見交換が行われた。30分後に3グループのみが発表し、中村ガバナーがそれぞれに講評をした。（その他意見については柏西RCのホームページで公開中）

最後にクラブごとに記念撮影をし本年度のガバナー公式訪問は修了した。100名を超える参加者の皆さん、大変お疲れ様でした

■グループ発表



■ガバナー講評



■閉会のことば

柏南RC会長：岩田 一秀



出席報告

会員数	55名
欠席者	0名
出席率	100%

●次回の例会は 9月11日(金)です。

クラブ会報委員／榊 かおり・水野 晋治・富田 正雄
渡邊 雅志・田代 健一・秋山 弘昭

欠席報告は、水曜日の正午まで

※食事の無駄をなくする為に協力して下さい。

Tel.04-7144-6277 Fax.04-7144-2370
携帯.090-6955-1920 SAA 田中 一成 まで